








# 避難 = 避難所? 人

問 安心安全課 ☎56-0611

今回は地震の時の避難について「市民のみなさんに知っておいてほしいこと」をお伝えします。

## 人 はじめに、「自助、共助、公助」について

災害の備えや対応は大きく分けると…

<p><b>「自助」</b> 自分の身は自分で守る。</p> <p> <b>日頃の備え</b> (食料、非常用トイレなどの備え)</p> <p> <b>自宅の安全確保</b> (家具の固定やガラスの飛散防止) など</p>	<p><b>「共助」</b> 地域で助け合う</p> <p> <b>近隣の助け合い</b></p> <p> <b>近所の人への安否確認や避難の支援</b></p> <p> <b>避難所の運営</b> (役割を分担し、協力して運営) など</p>	<p><b>「公助」</b> 自治体や国の公的支援。</p> <p> <b>避難所の開設</b> (安全確認や解錠など)</p> <p> <b>避難所への水や食料、生活物資の提供など</b></p>
--	---	--

の3種類があります。  
阪神淡路大震災での救助は9割が自助・共助によるものです。  
このことから3種類の中でも**自助・共助が重要**であると言えます。

## 人 「地震発生」→「避難」→「学校などの避難所」は絶対?



自宅に被害がなければ密を避けるためにも、**自宅で避難生活を送りましょう。**  
自宅に被害があるなど自宅で生活できない場合は、安全な親戚・知人宅に縁故避難を、それもできない場合は、安全確保のため避難所に向かいます。

## 人 自宅で避難生活を送るには?





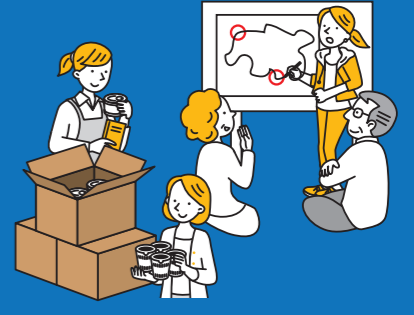
備えがなければ自宅での避難生活はできません。食料や非常用トイレなど、**1週間分の備蓄をしましょう。**また、挨拶をはじめとする日頃から顔が見える近所づきあいが、行方不明者などの救助に繋がることにもなります。

※備蓄が必要な物は人によって異なります。例：常備薬など。代表的な備蓄品はQRコードより確認できます。➔



## 人 自宅で避難生活ができず、縁故避難も不可能なら?

避難所に避難しましょう。

<p><b>避難所開設</b></p> <p></p> <p>避難所の安全確認・解錠は市職員が行います</p>	<p></p> <p>段ボールベッドの組立や受付対応などを避難者や地域住民の協力のもと行います</p>	<p><b>避難所運営</b></p> <p></p> <p>避難所の運営は、市の支援のもと、避難者や地域住民で行います。 例：避難所に届いた食料の一人一人への配布、避難所の清掃、トイレ掃除など</p>
---	---	---

※どの避難所を開設するかは市からお知らせします。市の登録制メール配信サービスの「安心メール」や市HPなどで、避難所開設の情報を収集しましょう。

安心メールの登録はこちら



避難所開設の動画はこちら



## 人 避難所開設訓練を振り返って

まちづくり協議会長・自治会連合会長・区長会議  
あさ い みちまさ  
浅井 通正 会長 (長湫地区長久手小学校区自治会連合会長)

11月に避難所開設訓練を行い、参加者のみなさんには避難所開設の流れを体験していただくことができたかと思えます。訓練で感じた今後の課題としては、避難所運営に携わる地域住民の協力がさらに必要であることや、避難所の密を避けるため、在宅避難に備える必要があることがあげられます。課題の解決に向け、今後も地域での話し合いや、訓練を実施していきたいと思えます。



避難所開設訓練は11月21日(日)に地域の代表者などが参加し実施されました。

**地震は忘れた頃に起こります。**  
起きたときの避難生活をイメージできていますか?